

令和6年度 星翔高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、多学科を有する総合学園の強みを生かし、中学生の興味・関心、適性に応じた多様な学びの入り口を提供し、スローガン（標語）である「笑顔輝く学園！」を掲げ、基礎学力、規範意識を基底とした以下の学力・能力・技能等を個に応じた指導で身につけさせる。

	工業技術系 4工学科	普通科 3コース			国際科 1コース
	機械、電子機械、 電気、コミュニケーションシステム	特進アドバンス	総合キャリア	アスリート	スポーツ
育成したい 学力・能力・技能等	・「ものづくり」の基礎的な技術・技能・知識 ・工業人としての高い倫理観と責任感	・大学受験勉強、準備等を通じて育成される自己理解・自己管理能力 ・難関大学に合格するための自学自習力、学力	・キャリア選択授業等により培われる進路選択力 ・探究学習等を通じて育成される主体的に学ぶ力、対話力	・スポーツに関する専門知識や技術、競技力 ・スポーツを通じて育成される礼節を身につけた人間力	・国際理解 ・スポーツ技術・技能 ・部活動等を通じて育成される人間力
	基礎学力・規範意識（基本的生活習慣）				
進路	大学（理工学系） 就職、専門学校	四年制大学等	大学、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職

*普通科アスリートコースは、令和6年度開設（国際科スポーツコースは、募集停止）。

2 中期的目標

I. 基礎学力の育成と授業改善

(1) ICTを効果的に取り入れながら、授業の質の向上を図り、学習意欲、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、授業改善に取り組む。

ア 授業アンケート結果をもとに教員の授業力の向上を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。

イ 教員の授業力向上のため、教員相互の授業見学や研究授業の活性化と、外部との連携による研修の充実を図る。

ウ 補習等のしくみを構築し、学習意欲、基礎学力の向上を図る。

*学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」について、肯定的回答70%以上をめざす。

*1、2年生のGTZ（学習到達度ゾーン）のC以上の割合を増やす。

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

ア 生徒に望ましい勤労観・職業観を身につけさせるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア教育・職業教育の充実を図る。

イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう日々の学習活動や放課後に指導を行う。

*インターシップ参加生徒数30名以上をめざす。

*資格取得を奨励し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別[T]・ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B]の取得者合計数10名以上をめざす。

*星翔高校ドローンスクールと連携し、2等無人航空機操縦士資格取得を増加させる。

II. 自立・自己実現の支援

(1) 基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。

ア 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。

イ 人権教育推進・教育相談委員会を中心として様々な人権課題に取り組み豊かな人権感覚を養うとともに、道徳教育の推進を図る

*年間遅刻回数一人あたり5回以下をめざす。

*転退学率4%以下をめざす。

(2) HR活動・生徒会活動・部活動及び行事等を通じて「つながる力」を育てる。

ア 地域や近隣の校種を超えた学校等との連携を強化し、自己有用感を醸成する。

*すべての生徒が参加できる機会の提供をめざす。

(3) 自己実現に向けた支援に取り組む。

ア 生徒の第1希望の進路実現に向け、分掌・学年・教科の連携を深め、指導の充実を図る。

イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。

*就職希望者内定率100%を維持する。

*大学進学希望者決定率100%、アドバンスコースについて、国公立1名、関関同立2名、産近甲龍4名以上の延べ合格者数をめざす。

III. 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保をめざす。

ア 出前授業、学校説明会等の精査・充実を図る。

*生徒在籍数800名以上の維持をめざす。

(2) 科、コースの魅力づくりを推進し、中学生の多様なニーズに応え、志願者増加を図る。

ア 「ものづくり教育」のさらなる充実、魅力化をめざし、工業各工学科の教育課程の精査、再編整備の検討を進める。

イ 普通科特進アドバンスコースの指導充実を図り、難関大学への進学実績をつくる。

ウ 普通科総合キャリアコースのキャリア選択授業のさらなる充実を図り、生徒の進路選択力を向上させる。

エ 推薦クラブ、クラブ種目等の見直しを含めた普通科アスリートコースの充実、改善を進める。

*教育課程の見直しを行い、理工学系大学進学等により対応できるようにするとともに、コースの新設等も検討していく。

*国公立1名以上、関関同立2名以上、産近甲龍4名以上の延べ合格者を出す。

*キャリア選択授業の大学、専門学校の連携校の多様化、増加を図る。

*推薦クラブの強化を一層進め、上位大会出場クラブ数を増加させる。

IV. 校務の効率化と職場環境の改善

(1) 校務の効率化を推進する。

ア 校内業務の精選と組織分掌等の再編整備をめざし、協議、検討を進める。

イ 情報の共有化、迅速化を図るため、校務のICT化を進める。

*分掌、委員会の再編整備、スリム化実現。

*職員会議等の資料のペーパーレス化実現。

(2) 職場環境の改善を進める。

ア 「働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック等の結果も踏まえ、労働安全衛生委員会等で協議し、改善を図る。

*ストレスチェック結果の基準値100以下をめざす。

	重点目標	具体的な取組み	評価指標	自己評価
I 基礎学力の育成と授業改善	<p>(1) 基礎学力の育成と授業改善 ア 「わかる授業」「魅力ある授業」の推進 イ 教員相互の授業見学や研究授業の活性化、外部との連携による研修の充実</p> <p>(2) ものづくり教育・キャリア教育の推進 ア 資格取得への支援 イ キャリア教育・職業体験教育の充実</p>	<p>(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を推進する。 ・教育実践にICTを効果的に取り入れ、学びの深化を図る。 ・朝学習におけるタブレット活用を推進する。 ・1年普通科総合キャリアコースにおける探究授業(クエストコーポレートアクセス)を継続発展させる。 イ・教員相互の授業見学、授業改善の取組みを進める。 ・授業研究ウェブサービスを教員の研修に活用する。 ・ICT先進校訪問。 ・保護者等の授業参観を実施する。</p> <p>(2) ア・国家資格を中心とした様々な資格取得指導を組織的に進め、達成感、成就感を醸成し、生徒の付加価値を高める。 イ・企業や大学等の連携を行うことにより、授業・HR等におけるキャリア・職業教育を充実させる。 ・専門学校・大学との連携を深め、2、3年普通科総合キャリアコースにおける選択授業をより一層充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」65%以上[62.2%]。 ・教職員による自己評価「ICT機器を活用した授業」60%以上[50%]。 ・具体的活用例。 ・クエストカップ全国大会出場[R1~R4連続出場]。 イ・授業見学1人1回以上[0.63]。 ・各教員1回以上の活用。 ・訪問具体例。 ・保護者150人以上の参加[179人]。</p> <p>(2) ア・ジュニアマイスター顕彰者数、2年平均実績以上[特別(T):1, ゴールド(G):1.5, シルバー(S):3, ブロンズ(B):3.5]。 イ・インターンシップ参加者数:20名以上[17名]。 ・生徒の授業アンケート肯定的回答85%以上[2年85.0%、3年91.3%]。</p>	<p>(1) ア・68.1% (○) ・62.5% (○) ・連絡事項伝達の活用にとどまる(△) ・全国大会出場は逃したが、佳作に選出される(△) イ・ほぼ全員一人1回実施(○) ・夏期休業中の教員研修中心に全教職員が活用。(○) ・未実施(―) ・180人(◎)</p> <p>(2) ア・特別(T):0, ゴールド(G):3, シルバー(S):6, ブロンズ(B):7。特別表彰は0だったが、他は増加(○) イ・19名(△) ・「授業を受けて良かった」の肯定的回答率:2年89.5%、3年83.7%(○)</p>
II 自立・自己実現の支援	<p>(1) 規範意識の向上 ア マナーの向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少への取組み イ 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 生徒会活動、行事等を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 生徒会活動の活性化 イ 部活動の充実 ウ 行事等の改善、充実</p> <p>(3) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現</p>	<p>(1) ア・無遅刻週間等の取組みにより、遅刻数の削減を図る。 ・集会時や日々の学校生活における啓発に加え、立ち番指導等を推進し、問題行動防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 イ・特別支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を進め、支援を必要とする生徒に対する教員による相談対応の充実を図る。</p> <p>(2) ア・清掃活動等、社会貢献につながる活動に取り組む イ・部活動を活性化し、生徒の加入率を向上させ、活気ある高校生活が送れるよう、環境整備や安全対策を強化する。 ウ・行事内容、実施時期等の検討、改善を図る。</p> <p>(3) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路3カ年計画に基づき、指導の充実を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな指導を行い、就職一次合格率、内定率の向上を図る。 ・大学進学希望者の進路実現に向け、放課後講習、夏期講習の充実、まなびサポートスペースの活用なども含め、きめ細かな進路指導を行い、進学先決定率を高めるとともに難関大学合格者を輩出する。</p>	<p>(1) ア・一人あたりの遅刻数7回以下[8.5] ・問題行動年間指導件数25件以下[30件]。 ・転退学率5.5%以下[7.6%]。 イ・学校教育自己診断「担任の先生以外にも、気軽に相談できる先生がいる」70%以上[67%]。</p> <p>(2) ア・摂津市のボランティア活動に延べ50名以上参加[50名]。 イ・加入率の55%以上[6月52.1%、2月52.8%] ウ・具体的改善例。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」75%以上[74.3%]。 イ・就職一次合格率85%以上[83%]。内定率100%[100%]。 ・大学進学希望者決定率100%[97.5%]。 ・アドバンスコースの関関同立1名、産近甲龍3名以上の延べ合格者数。</p>	<p>(1) ア・7.7回(△) ・19件(○) ・6.2%(△) イ・71.8%(○)</p> <p>(2) ア・70名(◎) イ・5月:50.7%、2月:49.2%(△) ウ・校外学習実施時期をGWの混雑期から、1カ月繰り下げ。進学補習を行事として夏期休業中に位置づけ。(○)</p> <p>(3) ア・81.2%(○) イ・就職一次合格率90.0%、内定率100%(○) ・大学進学希望者決定率100%(○) ・関関同立0名、産近甲龍延べ4名(△)</p>
III 信頼される魅力ある学校づくり	<p>(1) 広報活動と入学者の確保 ア 広報活動の充実 イ 入学者の確保</p> <p>(2) 各種大会等への参加 ア クラブ等の大会への参加、結果</p> <p>(3) さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題への対応と迅速な実行 イ 学科・コースの改編に向けた取組み</p>	<p>(1) ア・オープンスクール、入試説明会、出前授業等の精査・充実を図る。 イ・入試広報室を組織的に機能させ、様々な機会を捉えて学校PRを行い、志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習や部活動成果の発表の場として、各種大会等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3) ア・学年、分掌、科・コース等の会議を定期的開催し、課題を共有化し、迅速な対応を図る。 ・経営連絡会(理事長・校長・教頭・事務長・事務次長)で学校(経営)課題を共有し、解決、調整に向けて迅速な対応を図る。 イ・工業科の教育課程の見直しの検討。</p>	<p>(1) ア・オープンスクール来校者2回合計500組以上[544組] イ・定員(335名)充足[257名]。</p> <p>(2) ア・大会等の成果[なぎなた:全国大会出場、男子バレー・男子卓球:近畿大会出場、電気自動車研究:Enes-SUZUKA challenge 高校クラス全国2位、ドローン研究:ドローンサッカー大会 ランキング1位など]。</p> <p>(3) ア・会議の実施状況、内容を示す。 ・会議回数[15回]と主な内容を示す イ・具体的改善例等。</p>	<p>(1) ア・1599名680組(○) イ・入学者数338名(◎)</p> <p>(2) ア・ドローン研究:世界大会2位、なぎなた:全国大会出場、電気自動車研究:Enes-SUZUKA challenge 総合優勝、男女バレー、男子卓球:近畿大会出場等(○)</p> <p>(3) ア・課題の共有化が進み、職員会議等の時間短縮につながる(△) ・18回実施、財務状況共有、改善策提案、周年行事計画、収容定員・授業料改定、通信制協力校との情報共有等(○) イ・R7年度DXハイスクール事業申請の取組内容として検討(△)</p>
IV 校務の効率化と職場環境の改善	<p>(1) 校務の効率化推進 ア 校内組織の再編整備 イ 校務のICT化推進</p> <p>(2) 職場環境の改善 ア 「働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 教職員の健康管理体制の整備</p>	<p>(1) ア・分掌、委員会等の再編整備の検討。 イ・ICTを活用した校務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。 イ・勤怠管理システムを活用し、適切な勤務時間の管理を図る。</p>	<p>(1) ア・再編整備実現例。 イ・効率化の実現例:2件以上。</p> <p>(2) ア・ストレスチェックの「総合的健康リスク」(専任教員)を基準値100に近づける[普通教育部135、工業教育部152]。 ・教職員による自己評価「職場での相談・人間関係」60%以上[57.2%]。 イ・時間外労働時間月45時間以上の縮減。</p>	<p>(1) ア・R8年度から、5分掌を4分掌化することを決定(△) ・職員会議資料をタブレットで閲覧、欠席連絡等を校務システムで運用(○)</p> <p>(2) ア・普通教育部136、工業教育部170(△) ・33.4%(△) イ・令和5年11月~令和6年1月と令和6年~令和7年の同期間の比較:総時間外労働時間数は8.2%減少、45時間該当者の延べ数は、18から15に縮減。(○)</p>

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年1月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>【生徒】 ○昨年度（前回）に比べ、10の質問項目すべてで、肯定率が増加した 問1. 学校に行くのが楽しい。79.9% (+8.6%) 問2. 授業はわかりやすい。68.1% (+5.9%) 問3. 先生は、いじめについて、私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。66.4% (+5.1%) 問4. 担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。71.8% (+5.1%) 問5. 学校生活について、先生の指導は納得できる。69.5% (+5.3%) 問6. 進路関係の行事がよく行われ、学校は進路について情報を教えてくれる。81.2% (+6.9%) 問7. 星翔祭は、楽しく行えるよう工夫されている。78.0% (+7.8%) 問8. 体育大会は、楽しく行えるよう工夫されている。75.7% (+12.1%) 問9. 資格取得を先生に支援してもらえる。64.7% (+4.2%) 問10. この学校に入学してよかった。72.8% (+11.2%)</p> <p>○生徒の結果分析 質問10項目すべてにおいて、肯定率が昨年度より増加するという良好な結果だった。生徒は、概ね学校生活全般に満足していると考えている。</p> <p>【保護者】 ○昨年度に比べ、肯定的回答率が増加した項目 問1. 子どもは、学校が楽しいと言っている。78.7% (+2.1%) 問2. 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。63.0% (+2.2%) 問3. 学校の生徒指導方針には共感できる。68.0% (+0.5%) 問6. 学校は、子どもに生命を大切にする心や、社会のルールを守る態度を育てようとしている。64.6% (+0.9%) 問7. 学校は、教育活動について、提供の努力をしている。67.7% (+2.6%) 問8. この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。63.2% (+10.0%) 問9. 保護者会活動は活発に行われている。45.3% (+2.7%) 問10. 子どもをこの学校に入学させてよかった。83.7% (+4.7%)</p> <p>○昨年度に比べ、肯定率が減少した項目 問4. 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。73.5% (-0.1%) 問5. 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。52.5% (-2.5%)</p> <p>○保護者の結果分析 質問10項目のうち、8項目で肯定率が昨年度より増加しており、昨年と一昨年の比較より2項目増加し、生徒とともに良好な結果であり、学校の教育活動全般に対して、概ね理解が得られていると考えている。 問4については、減少がわずか0.1%であり、「まったくあてはまらない」の割合が6.3%減少しており、否定率という側面も勘案すると改善されていると言える。 問5については、4カ年の変化を見ても、肯定率は50%台で推移しており、改善の余地が大きいと認識している。他の質問項目に比べ「わからない」の割合が高く、保護者への情報提供の工夫が必要だと考えている。</p> <p>【教職員】 学習指導・生徒指導・進路指導・特別教育活動・学校運営の観点で、自己評価アンケートを実施した。令和5年度からは、全41項目の設問を13項目に精選し実施することとしている。 13項目について、50%以上の肯定的回答率があるのは、昨年度の6項目から8項目に増加しており、一定の改善が見られる。 特に「生徒1人1人が興味関心適性に応じて進路選択できるようにきめ細かい指導を行っている」の肯定率は81%であり、昨年度より、さらに5%増加し、学校経営計画の中期目標の「(3) 自己実現に向けた支援、生徒の第1希望の進路実現に向け、分掌・学年・教科の連携を深め、指導の充実を図る」が教員間でしっかり実践できていることを示唆している。</p>	<p>【中期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期目標の1番の「確かな学力」を「基礎学力」に変更したということであるが、元々の基礎的な知識や技能の上の活用部分を含めた「確かな学力」が、学習指導要領で求められている。それを敢えて「基礎学力」に変更した理由をもう少し教えて欲しい。 ・ 色々な資格取得に挑戦させる目標をあげているが、生徒に今一つどんな資格が取得できるのか伝わりにくい状況があるのではと保護者として感じている。 ・ II. 自己実現の支援の(3)の下に示されている2つ目の*の目標（関関同立2名、産近甲龍4名以上の延べ合格者数）とIII. 信頼される魅力ある学校づくりの(2)の下の2つ目の*の目標が重複している。 ・ ジュニアマイスターについては、全国工業校長協会が出しているきっちりとした全体の表を資料として提示して欲しい。 <p>【確かな学力の育成と授業改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝学習では何をやり、どのような取り組みをしているのか。実際にやっているものを見せて欲しい。 ・ 朝学習におけるタブレットの利用状況を教えて欲しい。 <p>【自立・自己実現の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期目標では、「規範意識の向上」とあるが、裏面の重点目標では「規範意識の醸成」とある。中期目標の表現を重点目標に落とし込むべきではないか。 ・ 転退学率は、私学においては、学校経営にも関わってくるので、指標にあげるのは決して悪くないが、学校の負の要素を敢えて公表する必要はないのではないかと。思い切って、問題行動の件数とか転退学率を抜いて、学校教育自己診断の「学校生活について、先生の指導は納得できる」という項目の肯定率を上げるか、あるいは否定率の割合を下げるというような指標にしてはどうか。 ・ 摂津市のボランティア活動については、達成状況を◎にしてもよいのではないかと。 ・ アドバンスコースの「関関同立1名、産近甲龍3名以上の合格者数」を指標にしているが、学校名を絞った延べ人数を指標にした方がわかりやすいのではないかと。 <p>【信頼される魅力ある学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラブに在籍している生徒数はどれくらいいるか。何か目標をもった生徒は、転退学しない。クラブ活動に在籍する生徒数を増やす目標があっても良いと思う。 ・ いわゆる進学校では、クラブ加入率は、90%近いところもある。50%前後というのは、極端に低い数字ではないと思う。半分以上はなんとか加入してほしいという思いはある。 ・ クラブ加入率について、国際科スポーツコース、普通科アスリートコースは100%である。全体としてクラブに入る雰囲気であればいいと思う。 ・ 文化クラブの充実も図って欲しい。 ・ 同窓会として、成績を残したクラブ、生徒に対していくらかの援助金を出している。 <p>【職場環境の改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働いている以上、ストレスが絶対かかる。それをちょっとでも軽減するような教員どうしのコミュニケーションが図られるような努力はしているのか。